

環境保全行動 報告提出書
自動車使用管理実施

2023 年 7 月 24 日

(宛先) 札幌市長

提出者 住所	〒 003-8515 札幌市白石区菊水6条3丁目1-26
氏名	株式会社アレフ
(代表者名)	代表取締役社長 庄司 大
(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)	

札幌市生活環境の確保に関する条例 第 1 3 条第 4 項 の規定により、環境保全行動 第 2 3 条第 3 項 自動車使用管理実施 報告書を提出します。

報告期間	2022 年 4 月 1 日 ~ 2023 年 3 月 31 日								
事業の規模	従業員数	1296	人	原油換算した	1710.8	kl			
	使用床面積	9327.9	m ²	燃料・熱・電気の合計量					
	事業所数	23	事業所	自動車使用台数	6	台			
	温室効果ガス排出量 (二酸化炭素換算排出量)	エネルギー起源CO ₂	3950	t-CO ₂	メタン	t-CO ₂	N ₂ O	t-CO ₂	HFC
非エネルギー起源CO ₂			t-CO ₂	PFC	t-CO ₂	SF ₆	t-CO ₂	NF ₃	t-CO ₂
報告書の担当部署	担当部署名 担当者氏名 電話/FAX 電子メールアドレス								
計画書提出根拠	条例第 1 3 条 (環境保全行動計画)				<input checked="" type="checkbox"/> 第 1 項 <input type="checkbox"/> 第 3 項				
	条例第 2 3 条 (自動車使用管理計画)				<input type="checkbox"/> 第 1 項 <input type="checkbox"/> 第 2 項				
計画期間	2022 年 4 月 1 日 ~ 2025 年 3 月 31 日								
環境保全行動 自動車使用管理実施 報告書	別添のとおり								
備考	(別添)計画書シート、4環境保全に係る実施組織体制を変更								

- 注 1 従業員数、使用床面積及び自動車使用台数は、報告に係る年度の 3 月 31 日現在で記入してください。
- 2 事業所数は、報告年度に係る年度の 3 月 31 日現在の札幌市内事業所数を記入してください。
- 3 燃料・熱・電気の合計量は、報告に係る年度に使用した量を原油換算して記入してください。
- 4 原油換算の方法は、エネルギーの使用の合理化等に関する法律施行規則第 4 条に規定する方法により行ってください。
- 5 温室効果ガス排出量は、地球温暖化対策の推進に関する法律第 2 条第 1 項で規定する方法により、二酸化炭素排出量に換算したものを記入してください。
- 6 のある欄には、該当する 内にレ印を記入してください。
- 備考 この様式により難しいときは、この様式に準じた別の様式を使用することができる。

別添

環境保全行動報告書
自動車使用管理実施報告書

1 行動目標の達成状況

【計画期間】

2022年4月1日～ 2025年3月31日

【報告期間】

2022年4月1日～ 2023年3月31日

行動目標	基準数値	目標削減率	2022年度結果			2023年度結果			2024年度結果		
			実績数値	削減率	結果	実績数値	削減率	結果	実績数値	削減率	結果
事業活動に伴う二酸化炭素排出量の削減(単位は売上千円あたり)	0.946	3	0.772	18	○						
	kg/千円	%	kg/千円	%							
事業活動に伴う水使用量の削減(単位は売上千円あたり)	12.98	3	12.5	4	○						
	ℓ/千円	%	ℓ/千円	%							
		%		%							
		%		%							
		%		%							
		%		%							

- 注 1 実績数値が基準数値よりも増加した場合は、削減率の数値の前に▲を記入してください。
 2 結果の欄には、以下のいずれかを記入してください。
 ○：目標削減率を達成
 △：実績数値が基準数値よりも削減されたが、目標削減率は未達成
 ×：実績数値が基準数値よりも増加

2 行動目標達成・未達成の理由

行動目標	結果	理由
事業活動に伴う二酸化炭素排出量の削減(単位は売上千円あたり)	○	計画年度に対し、CO2排出量は11%増となったが、コロナ禍で減少した売上げが回復し、約26%増となり、売上当たりの排出量が減少した。びっくりドンキー清田店のリニューアルや、各店舗の空調・冷蔵機器の更新を定期的実施し、エネルギー使用量増加を抑制出来た。
事業活動に伴う水使用量の削減(単位は売上千円あたり)	○	計画年度に対し、水使用量は22%増となったが、コロナ禍で減少した売上げが回復し、約26%増となり、売上当たりの使用量が減少した。びっくりドンキー清田店のリニューアル、テイクアウト需要の継続等で水使用量増加を抑制出来た。